

# 生存科学研究ニュース

VOL.13.NO.2 1998.5.10 発行

発行 財団法人 生存科学研究所

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1

電話 03-3563-3518

## 土屋健三郎先生のご逝去を悼む

先生の訃報に接し、本当に驚きました。私の方にはお知らせがなく、医療関係雑誌で知りましたので、ご遺族の皆様には大変失礼いたしました。深くお詫びを申し上げます。

先生と私との出会いは、武見先生の会長宅であったと記憶しております。私はよく会長宅に出入りしておりましたが、その間、多くの大学の先生が来られておりました中で、特に土屋先生には良くお会いした憶えがあります。

そのご縁がありまして世界医師会に会長とご一緒しました時等には、ブラジル、フィリピン、ヴェネズエラ等と一緒に親しくお話をする機会がありました。武見先生は大学の後輩というだけでなく、大変に信頼され、期待されておられ、産業医科大学が設立されました時に、土屋先生を真先にご推挙されましたことは至極当然と思ったことでした。

武見先生亡き後は、生存科学研究所の設立にご尽力され、その基礎作り、運営全般にわたり、大変なご貢献をされましたことは関係の皆様もご存じの通りのことと存じます。特

に私は平成三年、今は亡き熊谷洋先生が理事長になられました時、突然に副理事長のご指名を受け、微力ながらお手伝いをさせていただきました。その時にも土屋先生は副理事長として難問山積の会議運営に、研究会にありましては数多くの責任者としてご精励され研究所の発展に寄与されました。その間、生存科学研究所の将来について心配され、ご相談を受けたこともありました。私が地元での新事業の関係で副理事長を辞任いたしました後も、先生は新しい学会等を通じて、益々ご活躍をされ、生存科学研究所の新しい発展のために力を尽くされておられる趣を拝聴し、慶び、期待いたしておりましたのに、突然の訃報に接し痛恨の極みでございます。先生のご遺志を受け継ぎ、後に残る皆様のお力添えに大きな期待を希念し、心からの先生のご冥福をお祈り申し上げ追悼の言葉といたします。

合 掌  
山口正民

## 平成10年度事業計画

平成10年度の事業計画は3月5日の第3回理事会で審議され下記のとおり決定された。

- |   |         |
|---|---------|
| 1. 自主研究事業   |         |
| A. 川崎病研究会   | 1,461万円 |
| B. 生存科学研究会  | 150万円   |
| C. 21世紀医療システム方研究会   | 80万円    |
| D. 複雑系と栄養学研究会   | 50万円    |
| E. 都市型大災害後の復興後期における非<br>定住学童児の精神的変化と復学支援効<br>果に関する準備調査研究会 | 20万円    |
| 2. 協同研究事業   | 10万円    |
| 3. 講演会開催費・広報費   | 150万円   |
| 4. 学術研究誌発行事業  | 250万円   |
| 5. 受託事業費  | 40万円    |
| 合計  | 2,211万円 |

## 平成10年度第1回理事会

4月15日に出席者18名（委任状含む）で、江見理事長代行が議長に就任し、以下の事項が決定された。

1. 新理事長に江見理事、新副理事長に福井理事が全理事により承認され、他の副理事長の選出は後日行うことが承認された。  
江見理事長及び福井副理事長の任期は1年で、理事長、副理事長を含む全理事・評議員の任期は来年3月末をもって満了となり、改選される。
2. 生存科学研究会の発足について、バイオサナトロジー学会の名称を変更して、新ら

たに生存科学研究会として活動する。旧学会員への事務的な手続きなどの詳細を早急に連絡するよう議長より要望がなされた。

### 3. 基本財産運用替えについての報告

平成9年度第4回理事会で説明された、公社債による投資信託への運用替えが了承された。

## 21世紀医療システム研究

平成9年1月19日（月）

第5回21世紀医療システム研究会は、千葉大学藤井良治教授による「フランス医療保険改革法案をめぐる諸問題」が報告された。

1996年12月の社会保障改革の一環として、97年4月に提出された医療保険改革のための法律案の主な内容について、

①医師に対するペナルティ、②目標を守る医師に対する報酬、③一般医の役割、④開業医の情報化、⑤健康手帳、⑥自由診療を行う医師、⑦医師削減、⑧病院のリストラ等の概要の説明があったあと、質疑応答を行い、日本の現状への適用可能性について討論が行われた。なお1995年度「財源主体別医療支出」の一覧表はフランスの医療保険の概要を知るうえで、有益な資料と評価された。

なお、以上に関連して「ジュペプランによる社会保障財政改革」の内容が紹介され、フランスにおける社会保障制度維持のための条件に、どのような変化が見出されるかが議論された。

本研究会は、平成10年度に入って引き続き

行われるが、現在次のようなテーマを予定している。

(1)少子・高齢化社会の進行がもたらす社会  
経済への影響分析

a. 産業構造

b. 雇用構造

c. 社会保障における資源配分

(2)人口問題に対する生存科学的接近

a. 出生率低下の原因とその対策

b. 人口の長期波動と工業文明の成熟度  
との関係

(3)生命倫理と環境倫理を止掲した「生存倫  
理」の提言に向けて

(4)病院主導の保健・医療・福祉複合体の実  
証研究について

(5)戦後医療史50年の回顧とその評価

以上いずれも大きな問題であるが、同時に  
これら課題への取り組みを通じて、「生存科  
学」体系の構築に取り組みたい。

平成10年度

第1回生存科学講座の予告

昨今、青少年関連事件を始め、家庭内の  
様々な問題、不況による人間関係の軋みなど  
私達を取り巻く環境は厳しさを増しているよ  
うに思えます。生存科学研究所では心のゆと  
りや思想の幅、見方・考え方の多様性をもっ  
て、人と人のつながりをもう一度見直し、共  
存関係を作る場として、今年も生存科学講座  
を開設いたします。本年度のテーマは『人・  
つながり』を計画しております。

第1回は『賢治の学校』の著者としていじ  
めの問題、自立の問題に深く関わっていっ  
しゃる鳥山敏子先生をメインスピーカーにお

招きして、教育問題をテーマに開催する予定  
です。日程は下記の通りです。詳しくは7月  
号でまた、お知らせいたしますが、なるべく  
多くの方にご参加いただきたく取り急ぎ、予  
告案内をさせていただきます。

記

テーマ：教育『教えること・教わること』

講演者：鳥山敏子先生・もう1名はただいま  
交渉中です。

日 時：平成10年8月8日（土）

1：00～4：00PM

場 所：アルカディア市谷（私学会館）

入場料：会員は無料、一般千円

参加ご希望の方はハガキあるいはファックス  
にてお申し込みください。

バイオサナトロジー学会の  
名称変更について

新名称は生存科学研究会として生存科学研  
究所内の1事業として発足することになっ  
た。故土屋健三郎学会長はご逝去される前、  
去る1月31日の満5年記念総会で学会の名称  
を変更するという意向を表明されていた。し  
かしながら、研究会の活動は従来学会が目  
指した目的と同一の活動を継続されることも  
強調されたのである。

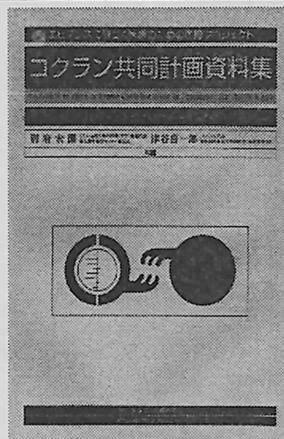
名称変更は、財団の所轄官庁の科学技術庁  
から、公益法人の内部に学会事務局を存置す  
ることは望ましくないこと及びカタカナの英  
語表示はできるだけ避けるようにとの指示に  
沿ったものである。

元来、バイオサナトロジー学会の目的は生  
存科学研究と同一のもので、学術研究とその  
実践的活動を推進してきたものなので本質的  
な問題は一切ない。

## 研究所日報

- 1月19日(月)「21世紀医療システム」研究会
- 1月20日(火)第5回受託事業「個人毎の健康度と疾病リスクの解析に関する研究」合同会議会
- 1月24日(木)第5回生存科学講座
- 1月31日(土)バイオサナトロジー学会  
満5年記念フォーラム
- 2月5日(木)第5回常務理事会
- 2月19日(木)平成10年度生存科学講座準備委員会
- 2月28日(土)平成9年度第6回生存科学講座
- 3月5日(木)平成9年度第3回理事会・第2回評議員会
- 3月26日(木)平成9年度第4回理事会
- 3月27日(金)科学技術庁に平成10年度事業計画および収支予算書・特定公益増進法人申請書提出
- 4月15日(水)平成10年度第1回理事会

## 会員寄贈図書



コクラン共同計画資料集  
—エビデンスに基づく医療のための国際プロジェクト—  
別府宏樹、津谷喜一郎 共編  
医薬品・治療研究会 発行  
定価1,500円+税



癒しの日本文化誌  
藤原成一 著  
法蔵館 発行  
定価3,400円+税